

▼新岩国駅前で植え込みを開始するメンバー



岩国の玄関口の一つ、新岩国駅を降りると、目の前の花壇やその周辺には四季折々の草花が咲き誇っています。春夏秋冬、絶えることなくさまざまな花が代わる代わる顔を見せるこの風景は、地域の人びとの手によって作られています。

トしたのは、おとしの6月のことです。グループの代表である土田さんは、それまで雑草が生い茂り、ごみの投棄などもあった空き地をどうにかできないかと考えていました。定期的に草刈りは行っていたものの、また草が生え、ごみが投げ込まれる、の繰り返し。そこで試みにヒマワリの花を植栽してみると、成長するにつれて空き地が鮮やかな景色へと変貌し、次第に

にごみを捨てる人もいなくなり、少しづつ植栽の場も拡大していき、こうして町を花いっぱい地域にすることを目的に作られたボランティアグループに、今では地域の小学生から70代まで45人が参加しています。月に一度、メンバーが集まって草花の世話をする際には、世代を超えた交流

も楽しみの一つとなりました。「苗を作ることが上手な人、花を育てる知識が豊富な人など、いろいろな人がいます。皆さんの得意技がそれぞれ融合して、活動が成り立っているんですよ」と語る土田さん。また、種や苗、球根などを交換したり、提供してくれたりする人が県外からもあり、花の輪だけでなく人の輪も大きく広がっています。

日々の活動に加え、毎年3月には反省会を開き、メンバーで楽しく食事をしながら活動を振り返り、今後の計画を立てるそうです。土田さんは「活動を通して、美しい町を作ることほもちろん、人と人との絆を深くし、防災や防犯に役立てることができたら」と話します。



▲和やかに行われる3月の反省会



▲県道沿いにも緑が広がる



花の輪を人の輪を

広げよう

Vol.58

土田 剛さん
(御庄在住)

御庄地区社会福祉協議会副会長を務め、活動の一環として「花いっぱい運動グループ」を発足。リーダーとしてグループをまとめ、毎月、植栽や花壇の整備などの活動を行っている。

